

【日時】2016年4月22日（金）10:00~16:30

【参加者】12名

【担当】飯田良智（星槎国際高等学校）

1) こどもみらい館（射水市）

こどもみらい館は、1992年に県立のこども施設としてつくられ、子どもの健全な育ちを図るために遊びの場とチャンスを提供し、あわせて県内の子ども系施設（児童館など）や各種団体のネットワークの拠点となって地域事業を支援しています。建物は、仙田満先生の設計であり、設計コンセプトは総合的・開放的な児童の場をつくり、建物全体に巨大な遊具にするとのことです。

藤田館長に説明をしていただき、館内を案内されたあとは、各自遊具を体験するなど楽しんでいました。

2) 新湊漁港（射水市）

新湊漁港は、水揚げされる魚種も漁獲量も多く、四季を通じておいしい魚介類に恵まれた好漁場をもつ県内でも有数の漁港です。漁港の市場は大変に活気があります。

「昼セリ」を見学したあとで、旬のホタルイカや富山湾の美味しい魚が盛り沢山の定食をみなさんでいただきました。

3) 環水公園（富山市）

富岩運河環水公園は「とやま都市 MIRAI 計画」のシンボルゾーンとなるように面積9.7haの広さの親水文化公園としてつくられました。富山の自然と運河の歴史を活かして、都会のオアシスとして水辺空間が演出され、その周囲には芝生スロープが配されて親水性が高められています。また公園中央には天文橋（ツインタワー）があり、新たな都市景観のシンボルとなっています。本プロジェクトは企画段階から仙田満先生が関わられました。

現地では本プロジェクトに関わられました元県都市計画部長埴生雅章さんに説明をいただきました。埴生さんは、計画に際して富山ならではの良さを活かすために、第一には当時の運河地形を改変せず、第二には当時からの野鳥の生育地をそのまま保存するという考えでのぞみましたと熱く語っておられました。

説明後、まずは野鳥観察の館に向かい、そこで野鳥を大いに鑑賞し、富山という都会に野鳥の楽園があることに大いに感動しました。つぎに、天門橋に向かい、ギャラリーとなっている南棟にて、埴生さんが公園の形成史を記したいくつものパネルを前にして、公園設計のコンセプトとその実際を説明いただきました。その後、公園内をゆっくりと散策し、「世界一美しい」といわれる某コーヒーショップに寄るなど楽しみました。

末筆になりましたが、九州工大の佐久間治さんがレンタカーで参上され、みらい館や環水公園にて設計面からの説明をいただきました。

（飯田良智）

